



「worXlab」に見るワークプレイスのDX

データ活用から生まれる 「豊かな働き方」



データ活用から生まれる「豊かな働き方」

Contents

■ 「つながり」からイノベーションをおこす 3	3
～Co-Creation が生まれるワークプレイス～	
■ データの使い方を本質的に考える 4	4
～顧客起点でのデータ取得、活用～	
■ データのビジネス活用を成功させるには ～クイックウィンから開かれる新しい働き方～ 5	5
■ 幸せなデータ提供・活用関係をつくる ～豊かさを実感できるデータ活用へ～ 6	6
■ データ活用による空間アップデート ～ワークプレイスの DX で心地良い豊かな働き方へ～ 7	7
■ パナソニックが提供するワークプレイス向けソリューション 8	8



宮田裕章氏

慶応義塾大学 医学部教授

専門はデータサイエンス、科学方法論、Value Co-Creation データサイエンスなどの科学を駆使して社会変革に挑戦し、現実をより良くするための貢献を軸に研究活動を行う。専門医制度と連携し5000病院が参加するNational Clinical Database、LINEと厚生省の新型コロナ全国調査など、医学領域以外にも含む様々な実践に取り組むと同時に、経団連や世界経済フォーラムと連携して新しい社会ビジョン—いのちを響き合わせて多様な社会を創り、その世界を共に体験する中で一人ひとりが輝くという“共鳴する社会”を描く。



モデレータ
中見 真也氏

神奈川大学経営学部
国際経営学科准教授

専門は、マーケティング戦略論、流通論。一般社団法人社会的健康戦略研究所特別研究員、一般社団法人日本オムニチャネル協会学術統括アドバイザー、横浜市広報報道連携担当会議アドバイザー。主な著書は、日本マーケティング学会主催日本マーケティング本大賞2020受賞作『オムニチャネルと顧客戦略の現在（共同代表編者、千倉書房刊）』、『ケースで学ぶ価値共創マーケティングの展開—新たなビジネス領域への挑戦—（分担執筆、同文館出版刊）』。

※このeBOOKは、パナソニック株式会社の動画コンテンツ
「WORK PLACE SESSION スペシャル版」から、エッセンスを分かりやすくまとめたものです。

「つながり」からイノベーションをおこす ～Co-Creationが生まれるワークプレイス～

今後、豊かに生きるためのキーワードは“つながり”

「物を持つ豊かさ」から「生きることの豊かさ」が求められる時代へ。

その人らしく、社会とつながりを持てることが大切に。

人々がつながり、**Co-Creation（相互作用）**することでイノベーションが起きる。
ただ、単に同調するだけでは何も起きない。

働く相手が大切にすることを共に大切に、相手を尊重することが不可欠

働く「場の設定」からイノベーションを起こす

相手と共通点がない状態では、すれ違うだけでイノベーションは起きない
互いを理解する、新しい価値を生み出す等状況に応じた「場の設定」が鍵となる

目的

リラックス



ワークプレイス例

お母さんのお腹にいるような安心できる環境

イノベーション創出



足場自体も不安定な、尖った内装の部屋

相互理解



調和ベースの環境

環境を変化させ、自分自身にプレッシャーをかけられるかということも重要



このページのまとめ

- 「生きることの豊かさ」が重要とされる時代へ
- Co-Creation（相互作用）がイノベーションを生む
- 目的に応じた環境作りが価値創造の鍵となる

ワンポイント解説

Well-Being から Better Co-Being へ



Better Co-Beingとは、宮田裕章教授の「これからの時代の新しい豊かさとは、一人で創るものではなく、人々が共創の中で生み出すもの」という考えを表した言葉。一人一人が幸福・健康であることが前提に、共に良く、響き合って生きていくことが大事とされています。

データの使い方を本質的に考える

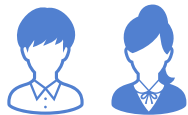
～顧客起点でのデータ取得、活用～

手段としての「デジタル」の活用

今までのプロセスを単にデジタル化するだけではなく、
デジタルという選択肢を手に入れたことで何ができるかを考える必要がある

例えば、教育現場でデジタルを取り入れることで何ができるか？

生徒



詰め込み型学習
→自分のペースへ

教師



一人一人に寄り添って豊かな生き方を
支えることができる。

デジタルという選択肢の中で一人一人に寄り添った働き方を生み出す。
それが、働く場・ワークプレイスの DX

一番大事なのは、顧客起点であること

本当に必要なサービス、顧客体験は何か？まずは問いをしっかりと磨く。
※「人々に寄り添い、豊かに生きてもらう」という顧客起点の考え方がポイント

手段としてデジタル、データを使う。

どんな状況においても、完璧にデータを取れるということはない
定性的な部分などデータで表現できない部分は常に残ってしまう

そのため、本当に重要なものは何か？問いを立ててからデータと向き合うべきであり、
常に見えるものと見えないものを意識した上で、データを活用することが重要



このページのまとめ

- デジタルは目的ではない。手段として活用
- うまく活用することでワークプレイスの DX を実現
- データを取る前に、顧客起点での問いを立てる

ワンポイント解説

ダイバーシティ&インクルージョン



多様な人材が、一人一人異なる存在として受け入れられ、全体を構成する大切な一人として活かされること。一人一人に寄り添い、マイノリティにもアプローチできるのが、デジタルという選択肢の特長です。

データのビジネス活用を成功させるには ～クイックウィンから開かれる新しい働き方～

データを取り入れた新しい働き方

オフィスは、これまでの島型から、働く人に寄り添った ABW へと進化を遂げてきたパナソニックではさらに一步先のデータを取り入れ、働き方を心地よく刺激するワークプレイスを展開する。



静的な空間

デジタル化による動的な空間

クイックウィンからワークプレイスのDXを実現する

結果が早く出そうなところから検討し、結果を検証しながら段階的にその先を狙う

空調や照明など、働く人が快適な設備の導入

ゆらぎのような風を出したり、香りを出したりするなど、
集中力を高める仕組みを取り入れる。

チームの生産性目標に対して、どのような結果が出たか。
どういうタイプの仕事のときに生産性が高まるかなどの検証

ひとりひとりに寄り添った豊かな働き方の実現へ。



このページのまとめ

- オフィスは、五感に刺激を与えるものへと進化
- ワークプレイスの DX にはクイックウィンが効果的
- 最終目標は、働く人がみんな幸せな環境にすること

ワンポイント解説

テックジャイアントも取り組む「クイックウィン」



長期のビジネスゴールを見据えつつも、短期・中期でも成果を上げていこうとする考え方やその手法を指します。クイックウィンに欠かせないのは、専門知識や経験知のほか、論理力、イメージ力、コンセプト力とされています。成果がスピーディーに出て分かりやすいことが特徴です。

幸せなデータ提供・活用関係をつくる

～豊かさを実感できるデータ活用へ～

ワークプレイスのDXには、個々人のデータが必須 「テイク」から「シェア」への変換が可能性を生む

従来の意識

- ・ プライバシーが侵害される
- ・ 管理されているようで不快
- ・ 査定に影響するのではない
- ・ 何に利用されているかわからない

これからの意識

- ・ 利用範囲を限定し・告知
- ・ 個性や利用実態を理解
- ・ ワークプレイスの快適さアップ
- ・ 生産性向上

データを取る・取られるのではなく、互いに持ち寄ることで、
新しい可能性や働く人の権利へとつなげることが大切

信頼されるデータ活用で、より豊かな働き方を実現

信頼されるためには、結果だけでなく、

データを活用して何を実現するのか、目的や利用法を共有することが必要

そして、データ活用後も、個人の豊かさに貢献したという
フィードバックをしっかりと行うことで信頼を得る。

働く人のエンゲージメント向上・モチベーション向上

一人一人に寄り添ってデータを活用することで、心地良い豊かな働き方へ



このページのまとめ

- ワークプレイスのDXで重要なのは個人情報の取り扱い
- 信頼感を得るには目的や利用法の共有
- 一人一人に寄り添うことで、豊かな働き方へ

ワンポイント解説

今後試される企業のエンゲージメント



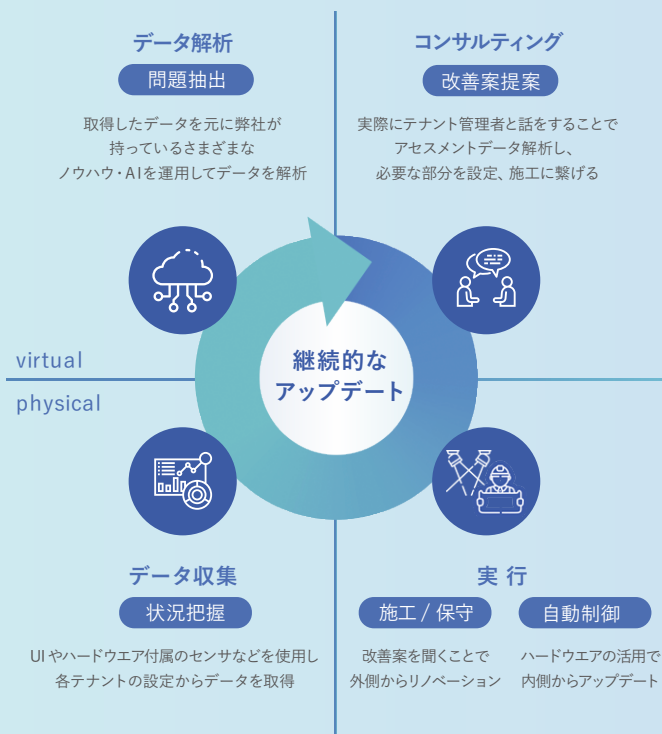
以前からその重要性が意識されていた企業と従業員のエンゲージメントですが、リモートワークを余儀なくされている現在、ますます重要性が高まっています。そして、企業の経営者は、エンゲージメント向上に四苦八苦しています。今後は、エンゲージメントの向上につながるオフィスの在り方・働き方が問われることになるでしょう。

データ活用による空間アップデート

～空間の進化と働く人の生産性向上で事業を成長させる～

環境変化に柔軟に対応し続ける アップデート型のワークプレイス

感染症対策や働き方の多様化によって、固定化されたオフィスでは働く人や管理者のニーズに対応しきれない場合も出てきました。人の動きやオフィス環境のデータを取得・分析することで感染リスク低減や環境改善に生かすことが可能です。また、取得したエリアの利用状況や人の交流状況などのデータをもとにオフィスを継続的にアップデートすることで、効率化や生産性の向上に生かすことが可能です。



ヒトデータの取得・分析 様々なセンシング技術により ヒトデータを取得

オフィス内のヒトの位置や動き、感情などを把握することが、快適に働ける環境づくりには必要です。様々なセンシング技術により、働く人の状況を正確に把握。取得したデータはクラウドで結合管理し分析することで、生産性向上のためのマネジメントに生かすことが可能です。



- 1** ヒトの位置情報を検出して個人の行動導線を把握
POSITUS ビーコン
- 2** エリアごとに密状態を画像スキャンで検出
空間スキャナ
- 3** カメラで表情や頭部の動きを検知して働く人の集中度を分析
表情分析 心理測定 (マトリクスアンケート)
- 4** CO2濃度や温湿度、騒音などを感知し、空間の快適性を分析
- 5** 生体センサーで働く人の皮膚体温や発話量などを把握

これからのワークプレイスに求められる 3つの視点

ニューノーマル時代に求められるワークプレイス空間の環境づくりを、
3つの視点からお手伝いします。

安心・安全への配慮と新しい働き方、 生産性向上をデータ活用で実現

パナソニックは、次の3つの視点でワークプレイスをアップデートするソリューションを提供します。1つ目は、ニューノーマル時代に備える「安全・安心に配慮した空間」。2つ目は、大きく変化する「新しい働き方への対応」。3つ目は、ヒト・環境・設備から取得した「データ活用による空間アップデート」。これらの視点を基に、テクノロジーを駆使して、社員が生き生きと健やかに働くことができる環境を提供します。



詳しいソリューションの内容は是非、お問い合わせください ▶

(お問い合わせ先)

パナソニックの空間ソリューションWEBサイト

<https://www2.panasonic.biz/ls/solution/office/index.html>

